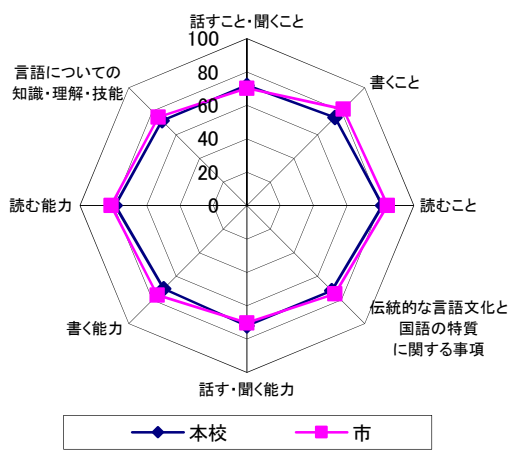


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.0	70.3	68.2
	書くこと	74.6	81.7	80.6
	読むこと	81.3	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.0	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	72.0	70.3	68.2
	書く能力	70.4	76.0	74.1
	読む能力	78.9	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	71.9	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「司会者の役割を理解して話し合おうとすることができる」の正答率は57.5%で、市の正答率を7.5ポイント上回った。 ○「与えられた情報を読み取り、話合いの観点に基づいて情報を関連付けることができる」の正答率は73.5%で、市の正答率を8.4ポイント上回った。 ●「与えられた情報を読み取り、話合いの観点をふまえて、意見を一つにまとめることができる」の正答率は50.4%で、5.3ポイント下回った。	・スピーチや発表など、友達の話を書く際には、意図を捉えながら聞くことを日頃から意識させる。 ・テーマに沿って話合いを進行したり、意見をまとめる力が身に付くように、国語の時間に限らず、話合い活動の場を多く設け、司会役を多く経験させるようにする。
書くこと	●「指定された長さで文章を書くことができる」の正答率は76.5%で、市の正答率を8.6ポイント下回った。 ●「グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書くことができる」の正答率は68.1%で、市の正答率を4.9ポイント下回った。	・文章を書く際には、「はじめ・中・終わり」のまとまりを意識させ、段落分けをして書くことの必要性を理解させる。また、原稿用紙を使って書かせることで、改行をしてマス下げて書き始めることを徹底させる。 ・事実と自分の意見の書き分けを定着させるため、「型」を示したり、例文を視写させたりする。
読むこと	○「目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取ることができる」の問題の正答率は81.4%で、市の正答率を0.4ポイント上回った。 ●「登場人物の心情を読み取ることができる」の問題の正答率は89.4%で、市の正答率を5.8ポイント下回った。	・物語文の学習では、場面の様子や情景などの細かい描写を丁寧に取り上げ、叙述に沿って登場人物の言動や心情の変化を読み取ることができるよう指導していく。 ・読書活動の充実を図り、物語文に限らず、いろいろなジャンルの本に目を向けさせる。調べ学習などを通して、本に書かれていることから要点を読み取る力を身に付けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「第4学年配当漢字を読むことができる」の正答率は84.1%で、市の正答率を2.8ポイント上回った。 ○「第5学年の配当漢字を書くことができる」の正答率は78.7%で、市の正答率とほぼ同じであった。 ●「第6学年の漢字を読むことができる」の正答率は74.3%で、市の正答率を6.4ポイント下回った。	・漢字の習得については、ドリル学習や確認テストを継続して行い、定着を図ることができるよう指導をしていく。 ・新出漢字の練習の際には、様々な熟語で練習させることで、漢字の持つ意味を捉えさせるようにする。 ・漢字を日常生活の中で使うよう促す。また、分からない時には進んで辞書やドリルで調べる習慣を身に付けさせる。